一れつ

アメリカ伝道庁創立 90 周年記念祭

去る、6 月 30 日、アメリカ伝道庁創立 90 周年記念祭を、真柱様の御名代として中山大亮様、真柱夫人の中山はるえ様をお迎えし盛大につとめられました。また前日にはアメリカ婦人会・アメリカ青年会創立七十周年記念合同総会が開催されました。

天 理 教 ア メ リ カ 伝 道 庁

No.920

JULY
2024

tenrikyo.com

つらつらせんがく 熟々浅学

― マルハラ ―

先月 30 日、天理教アメリカ伝道庁創立九十周年記念祭を、真柱様のご名代として中山大亮様、真柱夫人の中山はるえ様のご臨席を賜り、無事に滞りなく執り行うことができました。非常に有難く存じます。

また、前日の６月 29 日には、アメリカ婦人会・アメリカ青年会創立七十周年記念合同総会を、天理教婦人会会長様と天理教青年会会長様のご臨席を賜り開催しましたが、多くの婦人会員、青年会員にご参集していただき、有難うございました。

管内の皆様のご尽力、お心寄せを頂戴し、誠に有難うございました。今後も変わらぬご支援、ご協力をお願いしたいと存じます。そして、これからは教祖 140 年祭に向けて、年祭活動の充実を計って、年祭時には教祖にご安心頂き、またお喜び頂けるように務めて行きたいと存じます。どうぞ宜しくお願い致します。

さて、世の中には、さまざまな「ハラスメント」がありますが、「マルハラ」という「ハラスメント」があることを知りました。

日本ではスマートフォン（スマホ）に「LINE」というアプリケーション（アプリ）があり、電話代わりに使われますし、グループを作って情報交換したり連絡したりする機会が多くあります。中南米で多くの人が使っている「WhatsApp」と同じようなアプリではないかと思います。

LINE を使えば、携帯電話契約をしていなくてもネット環境が整っていれば無料で「テレビ電話」が可能です。以前は、Skype がその役を担っていたと思います。

また、LINE では電子メール（Email）のように、テキストで連絡を取ることができます。「既読」という機能がありますので、通信相手が送ったテキストを読んでいるか否かが直ぐに分かるようになっているので便利です。

LINE を使って日本語でテキストを送る際に「マルハラ」というのが起こるとのことです。他の SNS でも同様のことが生じているようです。

日本語を理解している人、少なくとも文章の区切りが句点の「。」で終わることを知っている人でないと「マルハラ」の微妙なニュアンスが理解でき難いかもしれません。私自身、このようなハラスメントがあることに驚いているくらいですから、母語が日本語でない方には少々理解し難い点があると思います。

若い世代は、LINE を使ってテキストを送る時に、最後に「。」を付けるか、付けないかによって相手の感情を判断するらしいのです。普通に日本語の文章を区切る際、「。」を使うことは何も問題ないはずですが、LINE や SNS での文章では、それに違う意味が込められているらしいのです。

若い世代には文章の終わりに「。」があると、送信相手が怒っているのではないかと思うとのこと。或いは、機嫌を損ねているのではないかと思うらしいのです。

それで、私の思いが至ったのは、若い世代からの LINE の文章には「。」が付いていないことが多いなぁと思っていたことです。

このようなことは、どうも世代間のギャップのようです。

日本のテレビ番組に昭和時代に育った男性が令和時代にタイムスリップし、昭和時代の価値観そのままに令和の世の中で生きて行くことを題材にしているドラマがあるようです。

その中に「マルハラ」もあるようですが、若者は「絵文字を使わない」、「誰からかかってきたかわからな

い電話に出られない（「出ない」ではありません）」、「会社はブラックでもホワイトすぎてもダメ」、「ドラマや映画の秒速再生」とのこと。若い世代にとって「絵文字を使う人は、おじさん、おばさん」と思うようです。

そう言われてみれば、そうなのかもしれません。

「誰からかかってきたかわからない電話に出られない」というのは、これは皆が携帯電話を保持しているからが理由のようです。つまり、自分のスマホに登録している人の電話にしか出られないということらしく、「出ない」という選択肢ではなく、怖くて電話に「出られない」とのこと。

私などは、知らない電話番号から掛かってくる電話は「ロボコール」と思っていますから「出ない」という選択肢を取りますが、若い世代の「出られない」とは意味が違います。

会社が「ブラック」というのは困りますが、「ホワイトすぎてもダメ」というのは、どういうことなのでしょうか。ある程度、「ゆとり」というのか「遊び」の感覚が会社にも必要ということなのでしょうか。

「ドラマや映画の秒速再生」というのは、若い世代は録画を再生する際、或いは YouTube などの動画を視聴する際、再生速度を速めて視聴することを意味しているようです。それだけ時間を大切にしているということらしいのです。

私もニュースや報道関係の YouTube の再生速度を 1.25 倍とか 1.5 倍にして視聴していることが多いので、この再生速度に関しては世代間ギャップのようには思えません。たぶん、多くの忙しい人は、YouTube などでは再生速度を速めて視聴していることが多いのではないでしょうか。

しかし、ドラマや映画などの再生速度を速めて視聴することはどうなのでしょうか。製作者の意図やメッセージを汲み取ることが難しいのではないかと思うのです。

私は前述のテレビ番組を視聴したことはありませんが、ネットでその番組の内容を紹介している記事を見ますと、私がかつて経験したことを題材にしています。

私は中学生時代、野球部に所属していましたが、真夏であっても練習中に水を飲んではいけないことになっていましたし、練習でミスをした時、「ケツバン」というコーチのノックバットでお尻を叩かれることがありました。もちろん、思いっ切り打たれることはありませんが、それでもそれなりに痛いものでした。当時、それらは当然のことと受け止めていましたし、大きな社会問題になることはありませんでした。しかし、そのことを現代で行えば大問題になります。

このように昔許されていたことをそのまま現代で行うことのできない社会を題材にしている番組です。

この番組の制作意図は分からないのですが、時代間のギャップを世界に知らせていることが一つの目的のように思われます。

「昔の時代はよかった」と年を重ねると思うようになる人が多いと思いますが、私もその一人かもしれません。

お道の信仰でも「昔はよかった」と思う人は多いのかもしれませんが、時代の変化を考えた時、「昔はよかった」では終われないものがあります。つまり、「末代の教え」と教えられるのですから、どのようにして「末代に繋げて行けるのか」を考える必要があると思うのです。

「マルハラ」のような事柄は、私のような世代では理解し難いと思いますが、そのような新しい価値観に順応する力は必要なのだろうと思うのです。それを鑑みた時、時代時代に合った布教をするということを考える必要もあると言えるのではないかと思うのです。

しかし、私は戸別訪問や神名流し、或いは路傍講演を否定しているのではありません。このような布教方法は「昔ながら」と思う人がいると思いますが、私は大切な布教方法であり、お道の布教方法の原点であると思っています。時代に合った布教方法を模索することも、オーソドックス（？）な布教方法を継続する力を持つことも、両方とも大切であると思っているのです。

さて皆さんはどのように思われるでしょうか。

深谷　洋

アメリカ伝道庁創立90周年記念祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたいと、紋型ないところからこの世人間をお造りくだされ、長の年限、限りなき御守護と尽きせぬ親心により、私共人間をお育てくだされ、天保九年十月二十六日、教祖を神のやしろに表に現れて、世界一れつをたすけるだめの御教えをお啓きくださいました。爾来、御教えは年と共に世界に伸び広がり、このアメリカ、カナダの地にては、立教九十七年一月二十七日、当伝道庁設立のお許しをいただき、今日まで九十年の歳月を積み重ねてまいりました。これも偏に、親神様、教祖のお導きは申すまでもございませんが、歴代真柱様を始め、先人の方々が、艱難道中を勇んで通り、世界たすけに燃える信念を貫いて北米大陸に道を広めてくだされた賜物でございます。私共は、親神様の御守護と教祖の親心に、また歴代真柱様を始め、先人の方々のお心尽くしに御礼申し上げ、今日の佳き日に、真柱様のご名代として中山大亮様、また真柱夫人の中山はるえ様のご臨席を賜り、只今より、ぢばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせて、鳴物の調べも高く、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめて、天理教アメリカ伝道庁創立九十周年記念祭を執り行わせていただきます。

御前には、今日の日を待ちわびたよふぼく、信者一同が、遠近を問わず寄り集い、日頃賜るご高恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬご守護にお縋りしたいと、声高らかにお歌を唱和する状をもご照覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

私共は、当記念祭に向けて、「スローガン」と「成人目標」を掲げて活動を進めてまいりましたが、管内一同は、それぞれの持ち場立場に於いて三年千日を共に歩ませていただくことができましたことは、誠に有難いことでございました。

本日は、中山大亮様にご代読いただいて、真柱様のお言葉を賜りますが、お言葉に込められた思召を心に治め、来る教祖百四十年祭に向けて、教祖にご安心いただけるよう、また、お喜びいただけるよう、それぞれが心の成人の道を歩むことを、今日の佳き日にお誓い申し上げ、また、本日の感激を忘れず、先人の方々が繋いでくださったこの道を次世代に伝え、更にはまた、道の伸展を目指して邁進させていただきたいと存じます。何卒、親神様には、私共のこの誠真実の心をお受け取りくださいまして、至らぬところは幾重にもお仕込みくださり、尚も変わらぬ親心を賜り、一日でも早く、世界の人々が手を取り合ってたすけ合う陽気ぐらしの世の状へと立て替わりますよう御守護の程を、創立九十周年記念祭の佳き日に、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

創立 90 周年記念祭真柱様メッセージ

此の度は、天理教アメリカ伝道庁創立 90 周年記念祭が勤められ、誠におめでとうございます。又、日頃、おぢばから遠く離れた地にあって、道の御用の上に何かとお勤め下さり、ご苦労様に存じます。本日、記念祭を勤められるに当たり、一言、私の思いますところをお聞き頂きたいと思います。

さて、1934 年、アメリカの地に伝道庁が置かれてから 90 年が経ちました。伝道庁が設置される経緯を考えてみると、アメリカの地には、それ以前から、伝道や移民を目的に渡米した人たちの熱心な布教により道が付き、いくつもの教会が設立されていたのであります。そして、アメリカで信仰する人が増えるにつけ、人々の心の拠り所となる場所が必要になってきた、というのが、伝道庁設立の契機になったと思うのであります。アメリカの道を想像すると、言葉も生活習慣も違う国での布教は、生易しいものではなかったでしょう。とりわけ、日米が開戦した戦時下の中を通られた方々は、収容所での生活を強いられるなど、大変な苦難の道であっただろうと察するのであります。その道中を、先人たちは、ひながたを心の頼りに、親神様、教祖にお凭れして懸命に通り抜かれ、今日のアメリカの道を築かれました。

この史実を思うにつけ、ここに私は、アメリカの道の上に真実を尽くして、一つの時代を乗り越えられた先人の方々に対して、時は経ちましたが、改めて、深い敬意を籠めて、心からお礼申し上げたいと思うのであります。そして、それと共に、今日の日を迎えた皆様方には、先人の心を受け継いでアメリカの道の上に心を寄せ、更にこの道を発展させて頂きたいと願うのであります。

そこで、この機会に、今一度、伝道庁が置かれた意味合いを思案すると、そこには、伝道庁が担うべき二つの役目が思い浮かぶのであります。

まず一つは、伝道庁もまた、土地所の教会と同じく、ぢばから、一つの名称の理をお許し頂いているということです。教会というところは、親神様の思召を世に示して広める所でありま

す。世界一れつをたすけたいと思召す親神様にお引き寄せ頂いて教会に寄り集まり、陽気ぐらしを学ぶ人たちの心からは、いつしか喜びがにじみ出て、教会の和やかで明るい雰囲気を醸し出します。そうした雰囲気が、自ずと外に向かって、陽気ぐらしの教えを示すことになるのであります。更に教会は、自分たちが味わった喜びを、幸せを求める人々に伝え広めるたすけ一条の活動を展開する所であります。

伝道庁には、こうした教会と同じ意味合いがあるのですから、伝道庁もまた、アメリカの地で陽気ぐらしを身に付ける一つの道場となって、陽気ぐらしの手本を示し、布教活動の拠点となることが、その勤めであります。

また一つ、伝道庁は、管内に修理肥を施す芯であります。ぢばと管轄する地域を繋ぐ所として、教会本部や海外部との互いの連携を密にし、意思の疎通を図ることは勿論のこと、ぢばの理を素直に受け、それを誤りなく伝えるということが、伝道庁に任された重要な役目であります。そして、この役目を果たすために最初に考えることは、そこに勤める人たちの心掛けであろうと思うのであります。ぢばの理を誤りなく受けるためには、伝道庁に籍を置くみんなが、日頃から、親神様の思召、そして教祖のお心を求めて、神一条の心を養う努力をしなければなりません。その上で、管内のよふぼく、信者の人たちが教会の様子を見ながら、どのように心の成人を進めていくか、教会や布教所が活気づくには、どうしたら良いかということを考え、現状を踏まえてじっくりと丹精し続けることも、伝道庁の大切な役目であります。日頃から管内に声を掛けて心を通わせ、必要に応じて、元気づけたり、また心の支えになるなど、管内の人たちが、それぞれの成人の道を心勇んで通ってくれるように心を配ることが、肝要であります。

私たちは、親神様の思召を享け、教祖の教えに導かれて暮らしている道の仲間です。所属する教会はそれぞれ違っていても、ぢばの理一つに繋がる者同士が心を結び合わせ、親神様、教祖のお心に近づく努力を重ねつつ、お互いの成人を扶け合って、共に陽気ぐらしの道を進む私たちの姿を、親神様、教祖はお望みになられているのではないかと思うのであります。

現在道は、2026 年（立教 189 年）1 月に勤める教祖 140 年祭を目指して歩む、三年千日の道程の半ばにあります。

教祖の年祭は、故人を偲んで勤める人間の年祭と違って、年祭を親神様が望まれる陽気ぐらしの世界へ辿り着くための一つの節目と捉え、その節目毎に成人の姿へ近づいていく様子を教祖にご覧頂いてご安心頂きたい、という私たちの決意をもって勤めるものであります。

月日のやしろに在す教祖は、どのような状況の中も親神様のお心のままに通られて、どんな人も救けて頂くことができる、たすけ一条のひながたの道を示されました。そして、1887 年（明治 20 年）陰暦正月 26 日、どこまでも私たち人間の成人を促されて、現身を隠して世界中

のたすけに働きに出られ、今も存命のまま、この世を陽気世界に導くため、私たちをお見守り下さり、お育て下さいます。この教祖の子供かわいい親心にお応えできるように、私たちは、一人ひとりが教祖の教え子であるという自覚をしっかりと持ち、ひながたを目標に日々を通り、心の成人を目指して、どこまでも努力を重ねるのであります。

親神様は、

「ひながたの道を通らねばひながた要らん。ひながたなおせばどうもなろうまい。・・・ひながたの道より道が無いで。」（明治 22 年 11 月 7 日刻限）

と仰せられ、私たちの成人は、教祖のひながたを辿ってこそ叶えられるのであって、その他に何の方法もない、とお諭し下さいます。ところが、仕事や様々なことがある日常の中に暮らしている私たちは、ともすれば、ひながたのことを、忘れてしまうことはなくても、考えることは後回しになりやすいのであります。しかしながら、年祭に向かうこの三年千日の期間はそうした日々とは違って、日頃からひながたに籠もる親心を思案する時間を増やし、思召にふさわしい心が使えるように、教えを実行する努力を重ねるのであって、これが、教祖の年祭に向かう三年千日の道の通り方であります。時には、思わぬふしに遭遇することがあるかもしれませんが、そうした中を、ひながたを思って、親に凭れて勇んで通れば、教祖は、それを見て、ご安心下さるでありましょうし、又、その皆さんの勇んで通る姿が、新しくこの道にお引き寄せ頂く人を御守護頂けることに繋がると思うのであります。

アメリカ伝道庁は、教祖の教えを形に現して、陽気ぐらしの教えを伝え広める一つの拠点となる所であります。創立 90 年を迎えたこの節目から、アメリカ伝道の上に更に新しい芽が吹き伸びゆく御守護を頂くことができるよう、活発に活動をくりひろげて今日の日を意義づけて頂きたいと思います。

どうか皆さん方にはお互い心を寄せ合い、力を合わせて一手一つとなり、そして、初めにも申しましたが、アメリカの道のために真実を伏せ込まれた幾多先人の心を受け継いで、これからも勇んで歩みを進めて下さいますことを心から願って、メッセージといたします。

真柱　中山善司

記念祭庁長挨拶

皆様にひとことご挨拶申し上げます。

本日、アメリカ伝道庁創立九十周年記念祭を、真柱様のご名代として中山大亮様、真柱夫人の中山はるえ様のご臨席を賜り、只今、滞りなく、勇んでつとめ終えさせて頂くことができましたことは、誠に嬉しく、有難いことであります。

また、本日ご参拝くださいました皆様、或いはご都合により参拝に来られずともお心寄せをくださいました方々に、心より御礼申したいと存じます。誠に有難うございました。

コロナ禍の中、この記念祭に向けての三年千日の歩みが始まりました。

そのような状況下、伝道庁として「スローガン」と「成人目標」を定め、共々に三年千日を歩ませて頂き、本日を無事に迎えましたことは、誠に有難いことでした。この期間、それぞれの持ち場立場で、精一杯にご尽力くださったことと存じます。誠にご苦労様でした。そして、有難うございました。

アメリカ伝道庁は昭和 9 年（1934 年）1 月 27 日に設立され、以来 90 年の時を刻み、今日の日を迎えております。この間、戦争という不幸な歴史があり、一時、道の伸展が停滞する時期もございましたが、その中を先人の方々が親神様の御守護を信じ、教祖のひながたを頼りにお通りくださり、今日の結構な姿をお遺しくださったのであります。

90 年と聞きますと私は、教祖が御年 90 歳で御身をお隠しになられたことを思い浮かべるのであります。そして、現身をお隠しになられた明治 20 年陰暦正月 26 日前後の一連のお言葉を思い浮かべるのであります。

例えば、

「真実というは火、水、風。」　（おさしづ、明治 20 年 1 月 13 日 / 陰暦 12 月 20 日）

とありますように、親神様の御守護によってこの世界が成り立っていること。

また、

「さあ／＼実を買うのやで。価を以て実を買うのやで。」

（おさしづ、明治 20 年 1 月 13 日 / 陰暦 12 月 20 日）

と、私たちの真実を親神様に受け取って頂くことの大切さ。

更には、現身をお隠しになられた直後のおさしづに、

「今からたすけするのやで。しっかり見て居よ。今までとこれから先としっかり見て居よ。」

（明治 20 年 2 月 18 日 /
陰暦正月 26 日　午後）

と、教祖は現身をお隠しになられても、存命同様に世界たすけに掛かると仰せ頂き、事実、今もお働きくだされていること。

90 年という年限が長いのか短いのか、人それぞれに受け取り方が違うと思います。

しかし、どちらの受け取り方であっても、90 年という年限の積み重ねがあるからこそ、今があることに変わりないと思うのであります。

アメリカ伝道庁に繋がる私たちに大切なことは、90 年という年限を遺してくださった先人の諸先輩方に御礼を申し上げると共に、更にその年限を積み重ねること、つまり次世代に道を伝えて育てることを、今日の日にお誓いすることではないかと思うのであります。

また、諸先輩方が遺されたご功績に負けないように、一人ひとりが御教えを心に治め、世界たすけのよふぼくとしての自覚を持って、神一条の心で陽気ぐらしを目指して、たすけ一条の道を歩むことをお誓いすることも大切であると思うのであります。

もちろん、今述べましたことを実行することも大切であります。

これからの私たちにとって大切なのは、今日の佳き日に頂戴しました真柱様のメッセージをしっかりと胸に治め、只今申しましたことを親神様、教祖、また真柱様にお誓い申し上げると共に、教祖 140 年祭年祭活動 2 年目の最中、諭達第四号に込められている真柱様のお思いを心の芯として、先ずは一意専心、残りの年祭活動期間を、教祖にご安心頂き、お喜び頂けるように務めることだと思うのであります。そして、教祖 140 年祭を迎えた暁には、達成感に満ち溢れた晴れ晴れとした心境でありたいと思うのであります。

最後に、この北米の地で道を広めてくださいました霊様方に、また本日ご参拝くださいました皆様をはじめ、伝道庁管内の皆様に改めて御礼申し上げると共に、今後も皆様の変わらぬご支援ご協力を賜りたくお願い申し上げまして、簡単ではございますが、本日のご挨拶とさせて頂きます。

本日は、誠に有難うございました。

90th Anniversary
SHARING OUR JOY OF FAITH

青年会長様御告辞

みなさんこんにちは。本日は、アメリカ青年会総会が開催され、誠におめでとうございます。今から、今年の青年会の基本方針である「心を澄ます毎日を。ーほこりを減らし、誠を増やすー」について、10分ほどお話させてもらいます。

日常生活の中で、ほこりを減らし、誠を増やしていくことは、心を澄ましていくために重要なポイントです。

「ほこり」とは、神様の思いに添わない心遣いのことで、知らず知らずのうちに心に積もっていくものです。「誠」とは、「人が良いなあ、嬉しいなあ、たすかるなあと思うような心と行い」のことです。

私は先日、心が濁ることがありました。その日は、夕方にひのきしん隊の百母屋に行く予定があったので、天理駅辺りから車で向かっていたのですが、この時間は大きな道路は混みやすいので、細い裏道で行こうと思ったんです。

その裏道に入ってすぐの、右はY's という美容院、左は和心（なごみ）という居酒屋があるところで、一時停止の線があるのですが、スピードは緩めつつも完全には止まらずに前に進んでしまったんです。すると、美容院の陰にバイクに乗った警察が見張っていて、後ろをつけてきたんです。「うわ、これはやられた・・・」と思って、車を停めて窓を開けると案の定、「今完全に停止されてませんでしたよね。免許証を見せてください」と言われたんです。

そこから、警察が手続きをしている間、待つ時間が5分ほどあったのですが、捕まった場所の周りが詰所だらけだったので、前からハッピを来た人は歩いてくるし、横の櫻井詰所では修養科生さんが玄関の掃除しているし、その人達にバレないようにずっと「この体勢」（ジェスチャー）で待っていたんです。

初めは、「急いでる時に限って何でこんなことになるんだ」とか「警察って意地悪だな」とイライラして、私の心の中は見事に濁っていました。でも、たまたま待つ時間ができたので、時間が経つと共にイライラも治まってきました。そしてその時、以前ある本部の先生に言われた言葉を思い出したんです。

私が、「先生は心を澄ますために意識されていることってありますか？」と聞くと、

「私は『待つ』ということを意識しています。腹が立った時、心は泥と水が混ざって泥水のようになっている。でも、泥水もしばらくすると泥と水に分かれてくるでしょ？心も同じように、腹が立った時こそ、出てしまいそうな感情をグッと堪えて、少し待ってみる。するとだん

だんと澄んできてイライラも治まってくるんです。」
と教えてくださったんです。
　そうしてイライラが治まってきた頃に、そういえば今青年会で、「ほこりを減らし誠を増やそう」と打ち出している。今この状況でこそ、「腹立ち」のほこりを積んで終わるんじゃなくて、誠の行いで終わりたい、と思えたんです。じゃあ今できる誠の行いは何かを考えた時に、帰り際に警察の方に笑顔で「ありがとうございました！」と言うことだな、と思ったんです。
　その後、警察の方が戻って来られて、「今回の違反金はこちらになります」と言われ、「7000円」の文字を見たときにまた心が泥水になりかけたのですが、なんとか堪えて、最後に相手の目を見て、「ありがとうございました！」と笑顔で言えたんです。ものすごい下手くそな笑顔だったかもしれませんが。
　こうして今回、思いがけぬ事柄から「待つ」大切さを学ぶことができました。
　誰しも日常生活の中で心が濁る瞬間はあると思います。その時、反射的に感情が言葉に出てしまいそうになるけれども、そこをグッと堪えて、少しだけでも「待つ」ことができれば、結果は大きく変わってきます。感情が出てしまうと後戻りできなくなるし、それがいい結果になることはほとんどありません。でも待つことができれば、冷静に考えられるようになり、ほこりを積むだけで終わらず、誠で終えることができるかもしれません。
　どうかこれからお互いに、おやさまのお心に少しでも近づいていけるよう、ほこりを減らし、誠を増やす努力を通して、心を澄ます毎日を楽しく通らせていただきましょう。
　ご清聴ありがとうございました。

婦人会長様御告辞

本日は、天理教アメリカ婦人会創立70周年記念総会を開催され、誠におめでとうございます。

皆様方には、日々は婦人会活動の上にお心をお寄せいただきまして、ありがとうございます。

とりわけ現在は、教祖１４０年祭年祭活動に、真心こめてお通りくださっていることと存じます。誠にご苦労様でございます。

教祖の年祭を勤める意義は、子供の成人を急き込まれ現身をかくされたお心に思いを致し、その親の思いに近づく成人の歩みを進める努力を重ねることにあります。

婦人会では、成人目標を

「ひながたをたどり、陽気ぐらしの台となりましょう」と掲げています。

そしてそのための活動方針は、昨年と同じ、

教祖140年祭に向かって　育つ努力、育てる丹精に徹しよう

一、元なる思召を伝え広めよう

一、老いも若きもおたすけの喜びを味わおう

でございます。

ひながたをたどる、ということは、教祖が教えて下さったことを素直に信じ、実行することだと思います。

教祖がひながたを通して教えて下さった肝心要の一点は、元の神・実の神である親神様を信じ、人間思案を捨て去って思召に添う心を定めて素直に実行すれば、人間の力では考えられないような不思議なご守護を下さるという真実でございます。

今、世界の現状を見聞きすると、親神様が望まれる陽気ぐらし世界を実現することは無理ではないかと思ってしまいます。しかし私たちは、元の神、実の神である親神様から、元の理を聞かせて頂いています。これは絶対に間違いのない真理であります。そして教祖は、どうすれば陽気ぐらしができるのか、歩むべき道を教えて下さっています。またつとめを教え、さづけをお渡し下さっているのです。をやの教えを聞かせて頂く私たちは、陽気ぐらし世界実現の為に努力をする心を定め、おつとめを真剣に勤め、おさづけを取りついで、親神様の思召を一人でも多くの人に伝えなければならないと強く感じるのでございます。

真柱様は第106回総会のメッセージの中で、元初まりのお話から説き起こされ、親神様がそれぞれの働きを教えられてお創りになった男女が、それぞれの役目を果たして立ち働いて一つ

のものを築き上げるということが、元なる親のお望みであると教えていただく、とご明示くださいました。そして、

「女性は、親神様から温み、万つなぎの役目を頂戴し、さらに苗代の守護の理によって、生み育ての徳分を頂いています。温かい心で家庭を治め、人と人の間を取り持ち、家族そして教会に出入りする人たちを元気づけて成長を見守りながら、共に道を歩んで、次の世代を育ててゆく。そうした、きめの細かい長期に亘る丹精は、道の台たる婦人だからこそ、できやすいことではないかと思うのであります。」

とお話しになりました。

また、ひながたの中の、どんな時も道の行く末が曲がったり間違うことのないようにと心を尽くし切られたお姿は、この道を受け継ぎ受け渡す私たちが、忘れてはならない手本であるとお諭しくださいました。

今を生きる私たちには、陽気ぐらし世界が来ることを信じ、疑わず、精一杯の努力をして、次へ繋いでいく使命があります。教えを伝えた方に、元の理を聞かせて頂く者は自分一人の信仰に止めず、家族に、子や孫に、また一人でも多くの人に教えを伝え広めることが重要なのだと得心して頂き、それを実行してもらえるまでに育てさせて頂くことが一番肝心なのです。いつもどの時代も、道の子みんながその自覚をもって、育つ努力育てる丹精を続けていくことが、親神様の計り知れない大きなご守護を頂くものだねになると思うのです。

おふでさきに

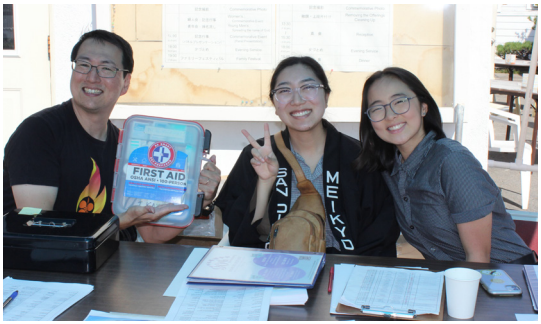
せかいぢうどこの人でもをなぢ事　いつむばかりの心なれとも　十四 23
これからハ心しいかりいれかへて　よふきづくめの心なるよふ　十四 24
月日にわにんけんはじめかけたのわ　よふきゆさんがみたいゆへから　十四 25
せかいにハこのしんぢつをしらんから　みなどこまでもいつむはかりで　十四 26

とあります。

親神様の教えを聞かせて頂いている私たちがまず、陽気づくめの心で教祖のひながたを素直に辿り、自分自身の心の成人を目指して、進んで教えを学び実行し、信仰信念を培い、徳を積ませて頂きましょう。元なる親の思召を知らずに勇めずにいる世界中の人々に、早く教えが行き渡るよう自らが積極的に動くようぼくに育ち、温かくつなぐ心で、身近な人を、実動するようぼくに育てましょう。

アメリカ婦人会につながる皆様が、老いも若きも一手一つに勇んで年祭活動を勤めてくださることをお願いして、告辞といたします。

アメリカ婦人会・青年会創立 70 周年記念合同総会



記念行事 / パネルディスカッション

ファミリーフェスティバル

創立 90 周年記念祭

直 会

伝道庁連絡

6月月次祭
祭　主　　庁長
扈　者　　長谷川邦昭　中富淳次郎
賛　者　　伊藤伊智郎　上杉浩司
指図方　　大西　知
神殿講話　長谷川邦昭（英）

教会事情
加奈陀教会：臨時祭典願、恒例祭日臨時変更願
おはこび：2024年4月18日
創立90周年記念祭：2024年12月1日
シカゴ教会：任命願、臨時祭典願
おはこび：2024年4月18日
教会長：木村陽介
奉告祭：2024年7月28日
台檀教会：移転願、臨時祭典願
おはこび：2024年4月26日
教会長：ソー・リン・ミツノ
鎮座祭：2024年7月27日
奉告祭：2024年7月28日
オレンヂ教会：任命願、臨時祭典願
おはこび：2024年7月26日予定
教会長：伊藤錦平
奉告祭：2024年9月21日

お出直し
アメリカ伝道庁で書記をつとめられた、本部准員・田中勇一先生が、7月11日（木）にお出直しになりました。享年69歳。みたまうつしは7月13日午後7時45分、告別式は7月14日午前10時30分に、第12母屋で執り行われます。ご生前の御功績に厚く御礼申し上げます

教人資格講習会・教会長資格検定講習会
例年8月末から予定されている教人資格講習会英語クラス、9月末からの教会長資格検定講習会英語クラスに受講希望者がおられましたら、早々に伝道庁までご連絡下さい。

天理教語学院（TLI）日本語科入学願書
及び志願者のための一れつ会扶育願書
2025～2026年の「天理教語学院日本語科入学願書」と「日本語科志願者のための一れつ会扶育願書」の出願期間が下記の様になっていますので、入学を希望される方は8月末までに伝道庁までご連絡下さい。
尚、今年度より、願書は天理教語学院のホームページ（https://kaigai.tenrikyo.or.jp/tli/top/）からダウンロードし、入手してください。同じページに入学案内、注意事項等もございますので、入学を検討されている方はご一読ください。

日本語科入学願書
出願期間：2024年8月15日～9月20日
日曜、祝祭日除く
願書費用：無料
一れつ会扶育願書
出願期間：2024年8月15日～9月20日
願書費用：無料（日本語科志願者のみ）

伝道庁人事
2022年4月8日より伝道庁青年として勤めていた金子大信さん（平安）は7月10日に任を終えて帰国しました。

各会連絡

教化育成委員会
・おやさと練成会　7月16～22日 於おぢば
管内からは11名が参加します。

広報委員会
・教祖140年祭に向けた活動のアイデアを管内の方々が共有できるようにとの思いで、実際に活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。
情報提供先
川上 kamishuyo@hotmail.com)
林（takhayashi@gmail.com)】

婦人会
・「How to Lead a Faith-Based Life」/「教えをもとに」の英語改訂版が発行されました。ご希望の方は1冊1ドルでお分け致します。地区責任者、または文書部までお申し込み下さい。

少年会
・少年会おつとめまなび総会が8月17日に開催され、その前日にはお泊まり会も行います。チラシにて詳細を確認の上、7月31日までにお申し込みください

青年会
・7/18～24インターナショナルひのきしん隊に、北米地域からは10名が参加しています
（東海岸7名、西海岸3名）。
・アメリカ婦人会・アメリカ青年会創立７０周年合同総会には、90名のアメリカ青年会委員が参加しました。

NYセンター
・8/9、10、15 「インターフェイス世界平和の集い」に参加（World Peace Interfaith Gathering）

TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES. CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE

TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God`s children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

"With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed. The mind alone is yours." Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.